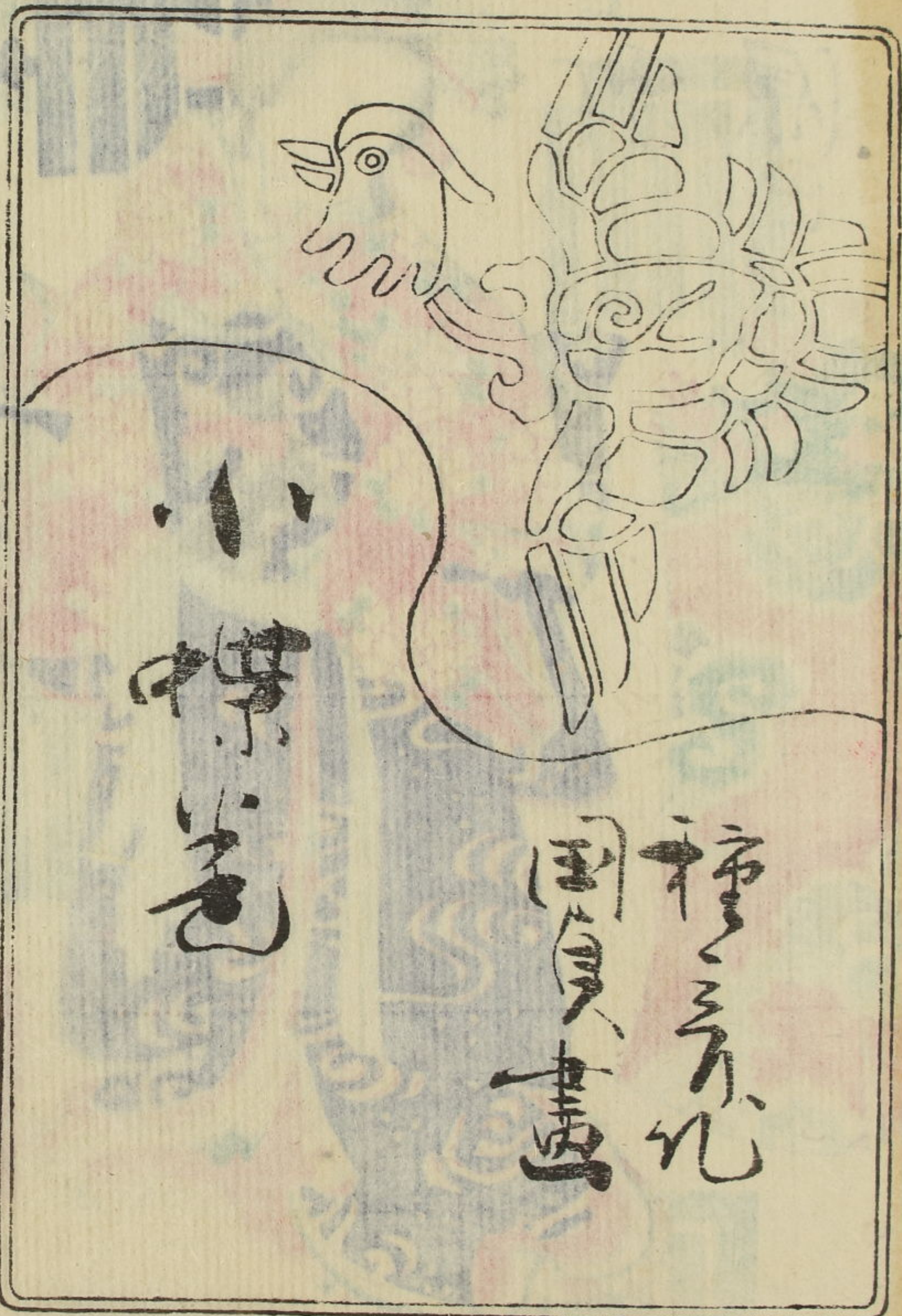




14
3157
52
(37)



忠臣藏ハ戯場道の獨參湯田舎源氏ハ合巻の犀
 角ありて一渠ハ忠士と愛する所以と如何なる艶の小
 夜衣仇と結び一山雲が神作是ハ両士が確執を摧く
 の謂也光氏がそらろ歩行の小夜衣重る其景を綴よる
 せ一古入が切とみなるこの自己耳頃の上迄此糟粕
 心を酔せど毒もあらしむる著述の多
 かりしを。开も此牌史ハ初編よりひらくる愛顧を象
 りしハ諺より又叢醫者ガ犀角を得一思ひよる
 あり

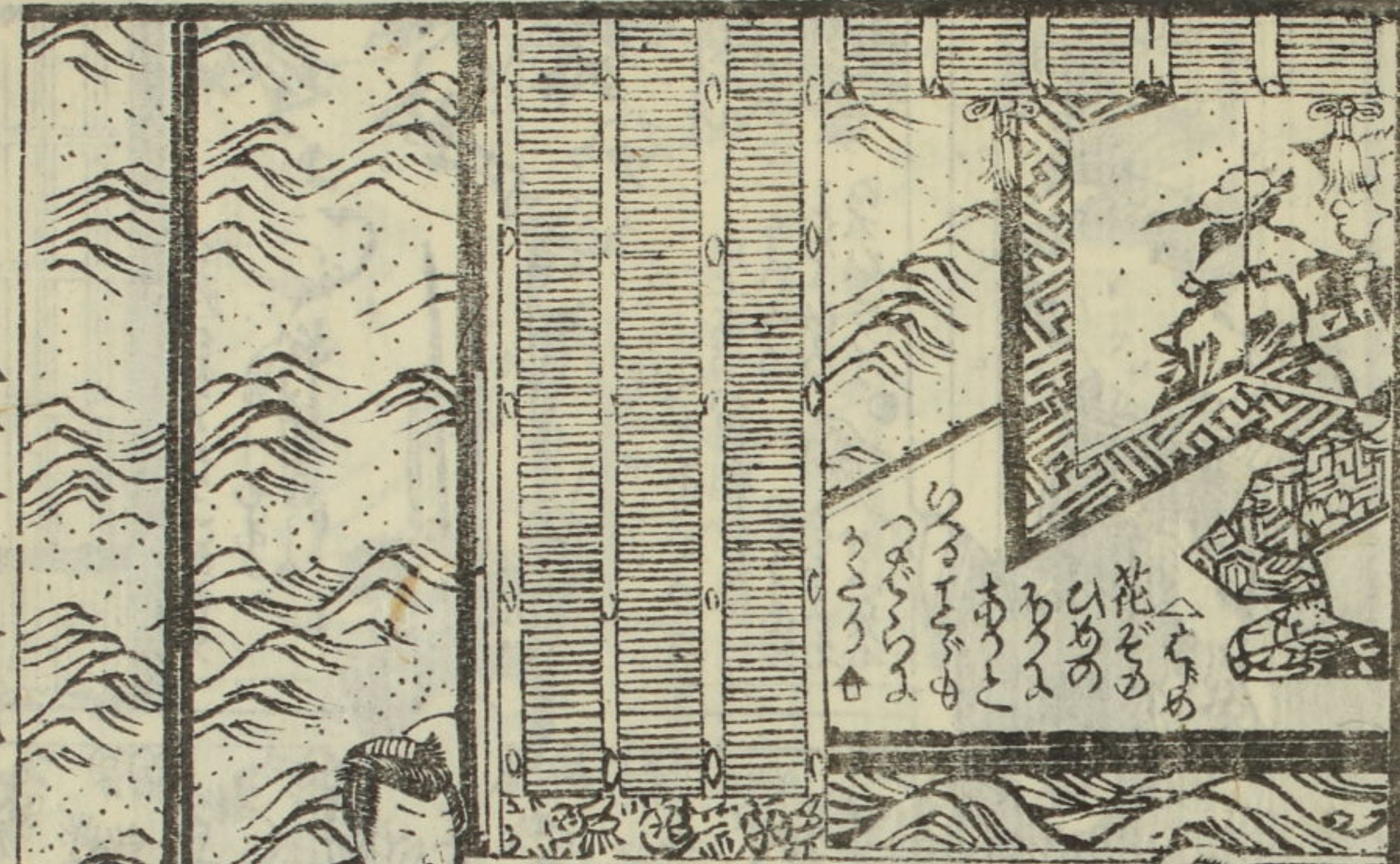
明治三庚午初春發兌

柳亭種彦記

室所十九







花ぞの
ひめの
あつと
つらつら
うらや
うらや



あつと
つらつら
うらや
うらや



武將の
あつと
つらつら
うらや
うらや

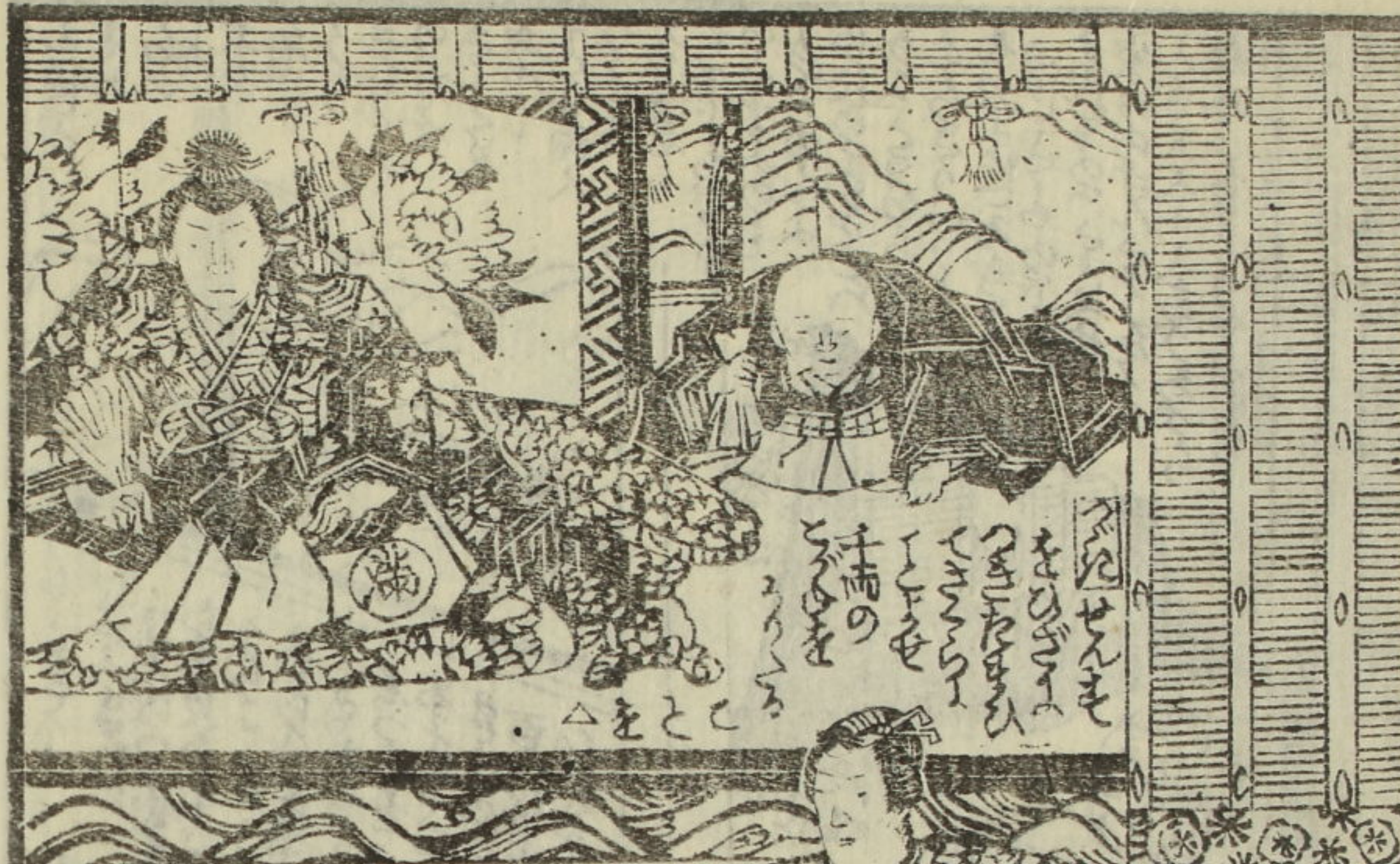
室町

室町

室町

室町

室町



あつと
つらつら
うらや
うらや



あつと
つらつら
うらや
うらや



あつと
つらつら
うらや
うらや



おまゐりや

休息所

五十一

おまゐりや

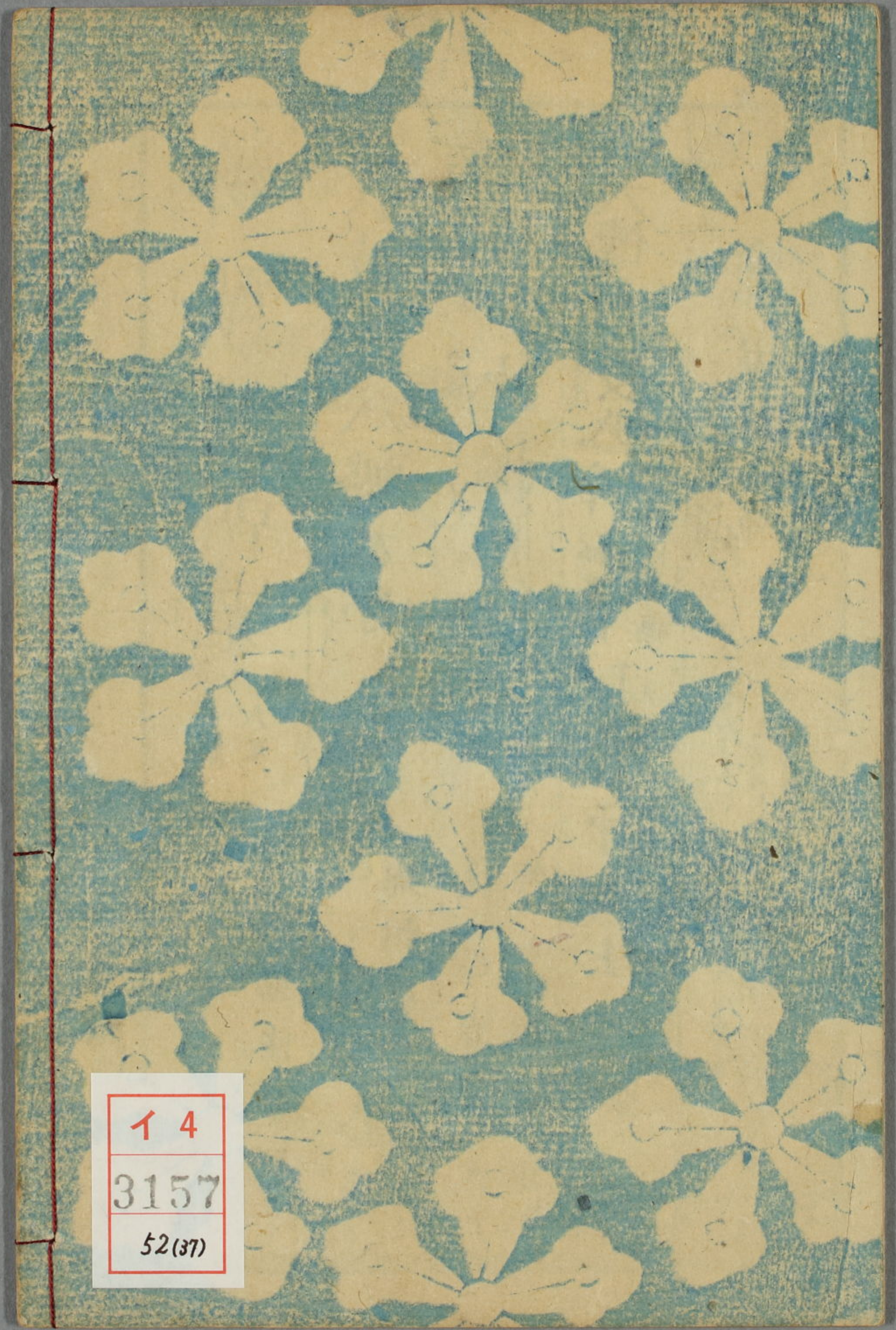
おまゐりや



おまゐりや

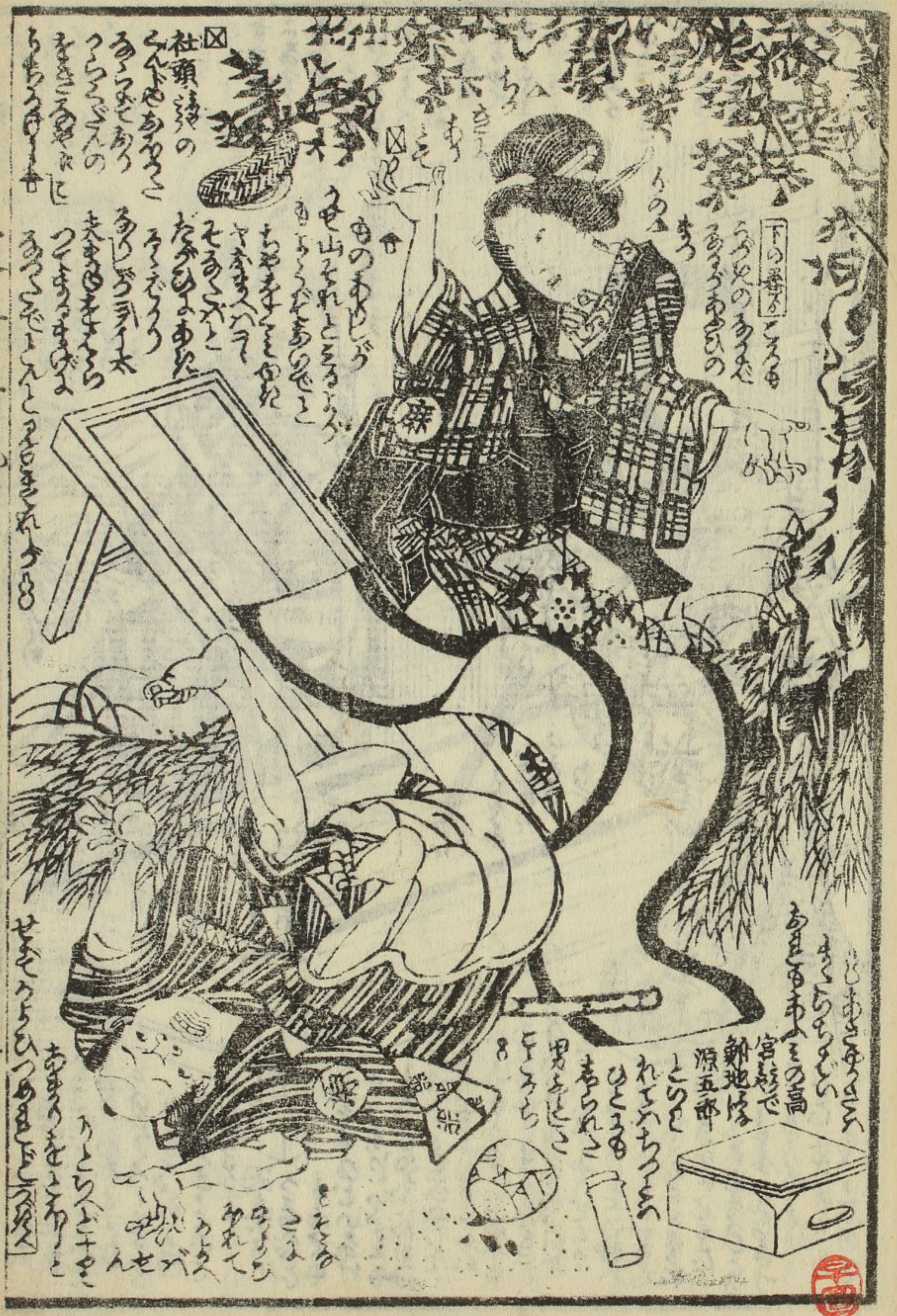
おまゐりや

おまゐりや



イ 4
3157
52(37)





社頭詩の
ふんちあやう
あつたあつた
つらつらあつた
あつたあつた
あつたあつた

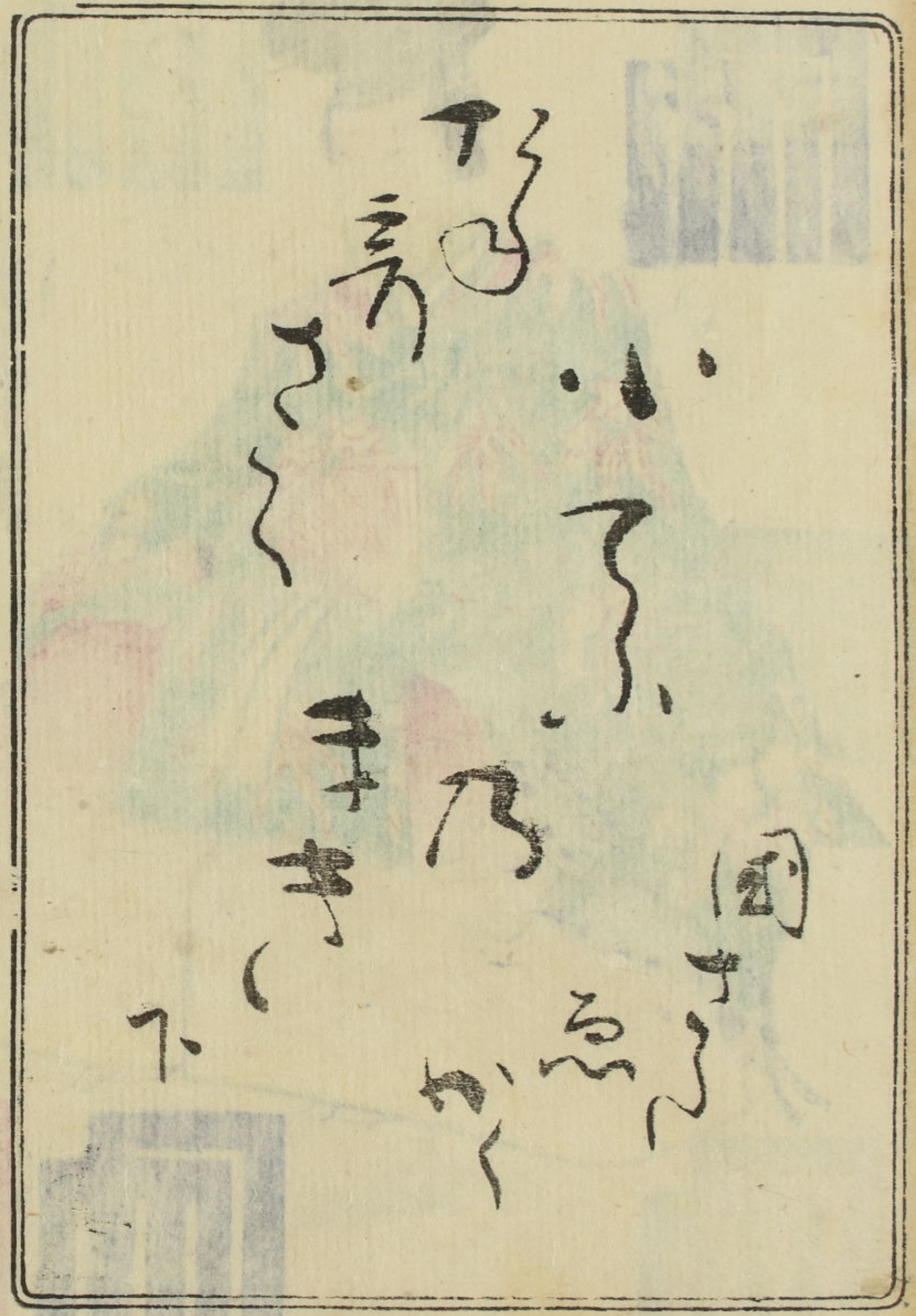
由のわびが
山それとさる
あつたあつた
あつたあつた
あつたあつた

下の巻のあつた
あつたあつた
あつたあつた
あつたあつた
あつたあつた

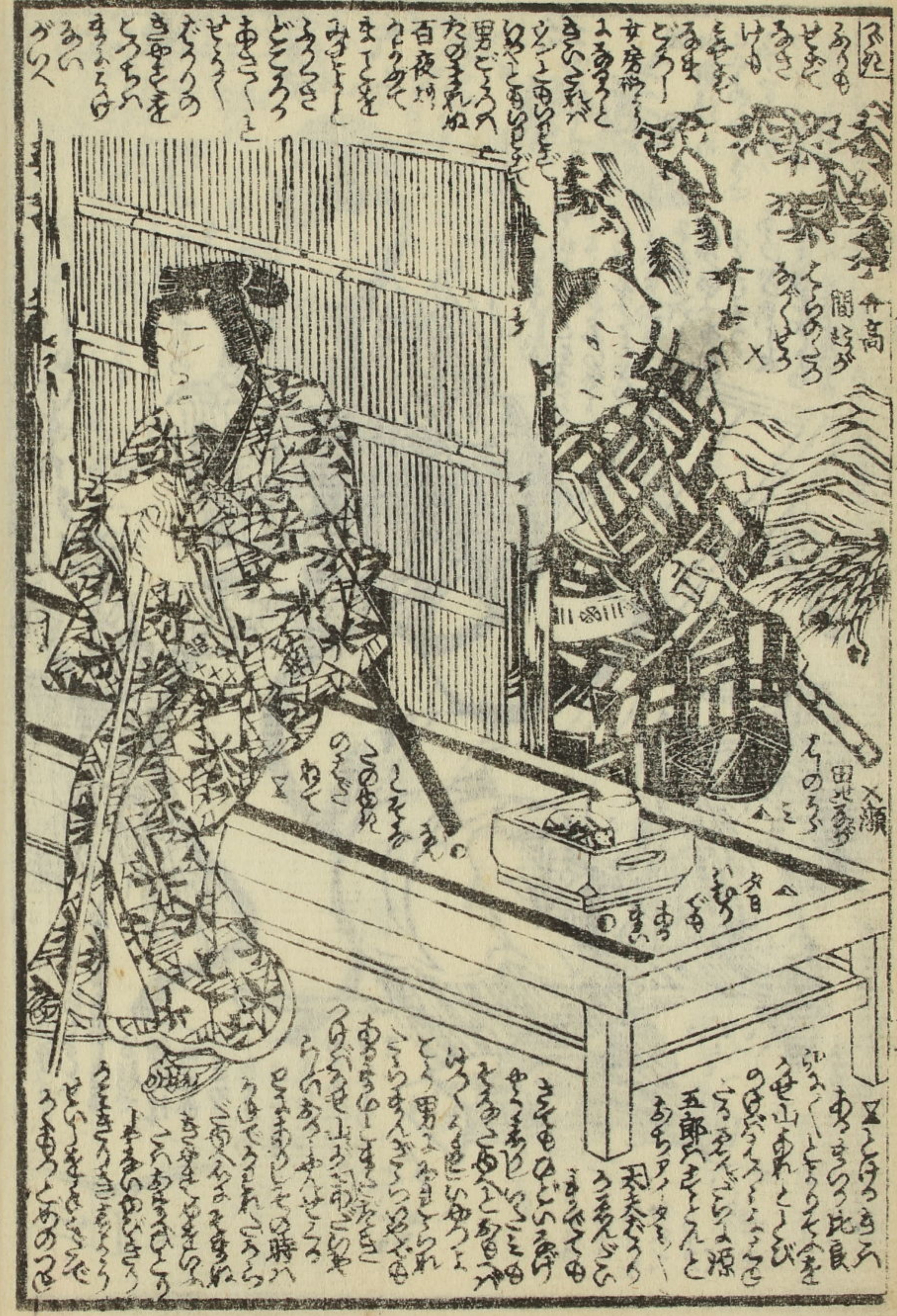
室町十九

あつたあつた
あつたあつた
あつたあつた
あつたあつた
あつたあつた

宮城
源五郎
あつたあつた
あつたあつた
あつたあつた



あつたあつた
あつたあつた
あつたあつた
あつたあつた
あつたあつた

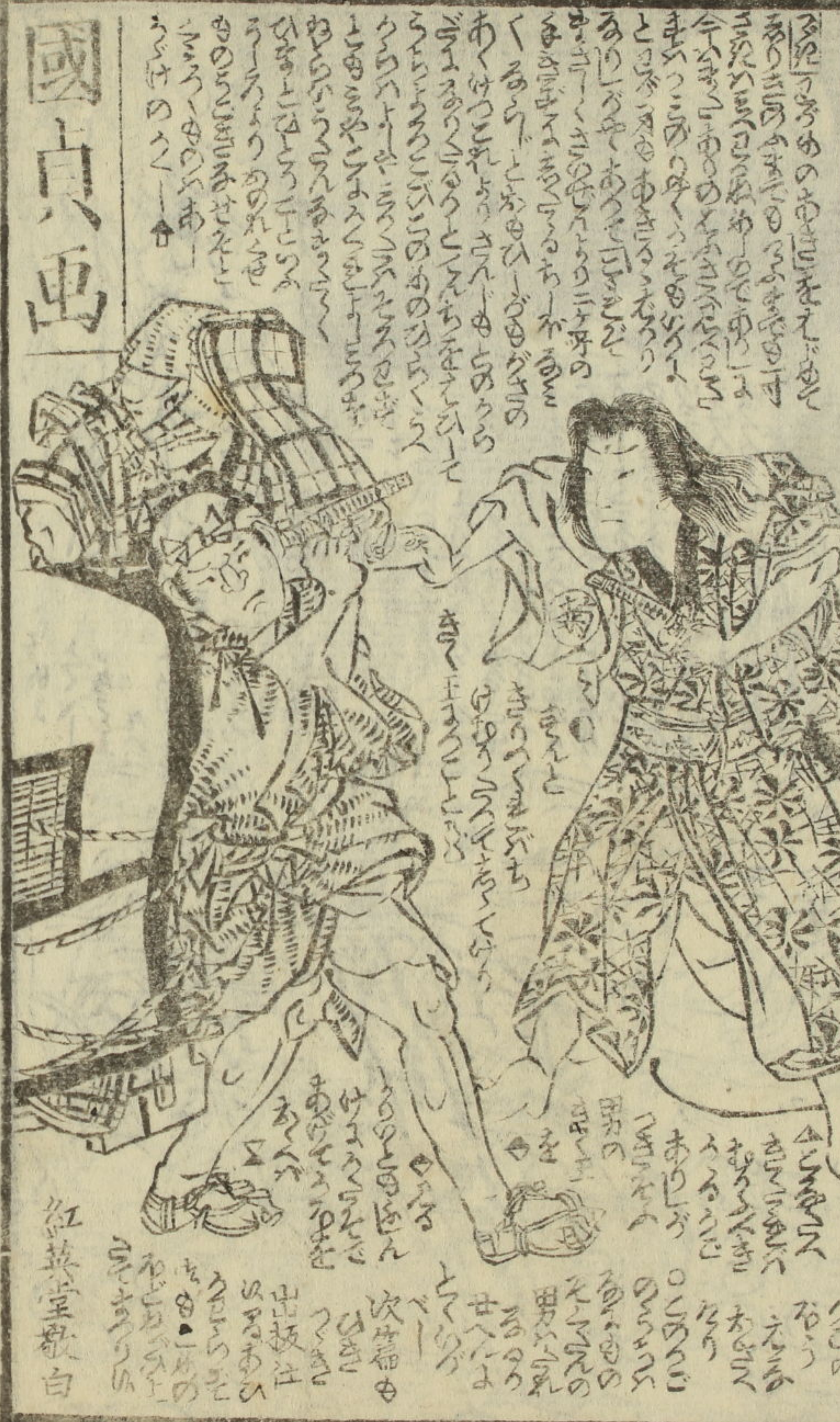








種彦作



國貞画

厚化粧萬年嶋田

十編春水作
大尾國貞画

新島九尾傳

十編春水作
大尾國貞画

室町源氏胡蝶卷

十編種彦作
大尾國貞画

筆海四國聞書

十五編種彦作
大尾國貞画

鼠祠通夜譚

十編種彦作
大尾國貞画

月鴉墨画燈籠襦

十編種彦作
大尾國貞画

童謡妙々車

十編種彦作
大尾國貞画

花封替玉章

十編種彦作
大尾國貞画

薄倖幻日記

三十編春水作
大尾國貞画

七娘引葛飾譚

十五種彦作
大尾國貞画

京橋屋南傳馬町堂丁目二番地
出板人 林吉藏



イ 4
3157
52(38)